

科目名	老年医学						
科目名(英)	Geriatrics						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	安藤 廣美		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部3年						
授業概要	我が国の平均寿命は世界一位となり、高齢障害者が増加している。リハビリテーションの場においても高齢者に関する知識がさらに重要となるであろう。この授業では老年医学に関する基本的な医学知識(病態、診断、治療、リハビリ)の習得を目指し、臨床実習で応用できる力を身につけることを目的とする。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				老年医学一般の知識について説明できる。	
	○	○				老年期疾患の病理、臨床像について説明できる。	
	○	○				老年期疾患に対するリハビリテーションについて説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1・2章 老化と老年病、加齢に伴う変化(生理機能)			配布資料の復習		
	2	第3・4・5・6章 加齢に伴う変化(運動機能・精神心理面)			配布資料の復習		
	3	第7・8・9章 高齢者へのアプローチ			配布資料の復習		
	4	第10章 老年症候群			配布資料の復習		
	5	第11章 循環器1 第12章 呼吸器1			配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習		
	6	第12章 呼吸器2 第13章 消化器			配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習		
	7	第14章 骨・運動器 骨折・骨粗鬆症・変形性関節症			配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習		
	8	第15章 神経疾患 脳血管障害など			配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習		
	9	第16章 精神疾患 認知症とうつ			配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習		
	10	第17章 内分泌代謝疾患 第18章 血液免疫疾患			配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習		
	11	第19章 腎疾患 第20章 泌尿器疾患			配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習		
	12	第21章 皮膚口腔疾患 第22章 感染症			配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習		
	13	第23章 耳鼻科疾患 第24章 眼科疾患			配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習		
	14	第25～32章 高齢者を取り巻く環境・リハビリテーション			講義全体の資料整理と試験に向けての準備		
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	作業療法評価学Ⅱ						
科目名(英)	Introduction to OT Assessment Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	野村 和代		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院で勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年生						
授業概要	作業療法のアプローチには、対象となるクライアントのを知ることが重要である。すなわち、身体・精神・社会的な情報を収集して、統合、解釈をして、集めたデータがクライアントの生活にどう結びついていくのかを考える必要がある。この授業では、主に身体的な情報収集に関する検査・測定方法を身に付ける。具体的には、クライアントの問題点を把握するための、検査・測定の知識と技術について学習する。						
授業形態	講義： △	演習： ○	実習： △	実技： △	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				作業療法評価の目的と流れを説明することができる。	
	○	○				作業療法評価に用いる様々な検査・測定方法について説明できる。	
	○	○	○	○		様々な検査・測定方法を関係づけ、学生を対象者とみなして検査・測定を実施できる。	
	○	○				評価結果から得られたデータが実際の生活にどう影響しているかを予測することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1. 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院 2. 実践リハ評価マニュアルシリーズ臨床ROM ヒューマンプレス 3. 新・徒手筋力検査法 共同医書出版 4. 神経診察クローズアップ メジカルビュー社 5. 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 メジカルビュー社 6. 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 メジカルビュー社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・総論・身体計測			受講に必要な解剖学等の知識の復習		
	2	バイタルサインの評価			受講に必要な解剖学等の知識の復習		
	3	関節可動域測定 オリエンテーション、上肢(肩、肘、前腕)			受講に必要な解剖学等の知識の復習 教科書の動画の事前確認		
	4	関節可動域測定 上肢(前腕、手関節)			受講に必要な解剖学等の知識の復習 教科書の動画の事前確認		
	5	関節可動域測定 上肢(指)			受講に必要な解剖学等の知識の復習 教科書の動画の事前確認		
	6	関節可動域測定 上肢(上肢全般の復習)・下肢(股関節)			受講に必要な解剖学等の知識の復習 教科書の動画の事前確認		
	7	関節可動域測定 下肢(膝・足関節)・体幹			受講に必要な解剖学等の知識の復習 教科書の動画の事前確認		
	8	関節可動域測定 下肢(膝・足関節)・体幹			受講に必要な解剖学等の知識の復習 教科書の動画の事前確認		
	9	筋力の評価(握力・背筋力など器具を使った筋力測定)			受講に必要な解剖学等の知識の復習 教科書の動画の事前確認		
	10	徒手筋力検査(キーマッスルについて)(肩・肘関節)			受講に必要な解剖学等の知識の復習 教科書の動画の事前確認		
	11	徒手筋力検査(前腕・手関節)			受講に必要な解剖学等の知識の復習 教科書の動画の事前確認		
	12	徒手筋力検査(手指・股関節・膝関節)			受講に必要な解剖学等の知識の復習 教科書の動画の事前確認		
	13	徒手筋力検査(足関節・足部)・体幹			受講に必要な解剖学等の知識の復習 教科書の動画の事前確認		
	14	徒手筋力検査(国家試験出題されやすい部位)			受講に必要な解剖学等の知識の復習 教科書の動画の事前確認		
	15	実技のまとめ			実技を習得しているか確認する		
評価方法	成績処理方法：(1)筆記試験実施する。(2)実技試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	実技テスト	◎	◎	◎	◎		40%
履修上の注意	実技時の服装は、学則及び臨床実習時の心得に順ずる。						

科目名	身体障害作業療法学 I						
科目名(英)	OT for Physical Dysfunction I						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	松田 茂		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院で勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部3年						
授業概要	臨床での身体障害の作業療法は様々な疾患や障害と出会うことになる。それゆえ多くの疾患を知る必要がある。この授業では、作業療法の介入の基礎となる一般的なことや、疾患に対する具体的な作業療法のアプローチを学ぶ。前期には脳血管障害を行う。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				身体障害の概念を説明できる。	
	○	○	○			身体障害に対する作業療法の基本的な考え・役割・手段・流れを説明できる。	
	○	○	○			作業療法の対象となる代表的な疾患(脳血管障害)について説明できる。	
	○	○	○			作業療法の具体的な介入方法を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	指定の教科書 参考図書については、その都度紹介する。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、総論				配布プリントを復習する。	
	2	総論 関節可動域訓練				配布プリントを復習する。	
	3	総論 関節可動域訓練(実習)				配布プリントを復習する。	
	4	総論 筋力低下・持久力低下				配布プリントを復習する。	
	5	総論 筋力低下・持久力低下(実習)				配布プリントを復習する。	
	6	総論 感覚、総論 感覚(実習)				配布プリントを復習する。	
	7	総論 筋緊張				配布プリントを復習する。	
	8	総論 ボディメカニクス・姿勢とバランスの制御				配布プリントを復習する。	
	9	総論 廃用症候群				配布プリントを復習する。	
	10	総論 物理療法				配布プリントを復習する。	
	11	各論 脳血管障害(疫学・分類)				配布プリントを復習する。	
	12	各論 脳血管障害(症状・医学的治療法)				配布プリントを復習する。	
	13	各論 脳血管障害(作業療法評価)				配布プリントを復習する。	
	14	各論 脳血管障害(作業療法実践)				配布プリントを復習する。	
15	前期の振り返り						
評価方法	(1)レポートを作成する (2)定期試験(筆記試験)を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト						
	宿題・レポート	◎	◎	◎			20%
発表・作品							
履修上の注意							

科目名	発達障害作業療法学 I						
科目名(英)	Occupational Therapy for Developmental Disorders I						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	小野 仁		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院・福祉施設で作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年						
授業概要	発達障がい領域の作業療法を展開するうえで必要な人間発達学を基盤とした関連知識を統合し、本人や家族の成長やライフサイクルの変化に対応した関わりのできる作業療法士を目指す。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技: △	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人間発達学で学んだ発達過程、発達領域に関する知識を作業療法評価に活用できる。	
	○	○				発達障害領域における作業療法の理念、目的、役割を説明することができる。	
	○	○				発達障害領域における作業療法の流れを説明することができる。	
	○	○				代表的障害(発達障害、脳性まひ、摂食嚥下障害)について臨床像を説明することができる。	
○	○				上記障害の治療、指導、援助内容を考え、表現することができる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 改訂第3版、メディカルビュー、2021 参考文献:岩崎 清隆・他、発達障害と作業療法[実践編]第3版、三輪書店、2019 上杉雅之監修、辛島千恵子編集、イラストでわかる発達障害の作業療法、2106 その他						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	子どもの発達と作業療法 姿勢・運動発達			復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します		
	2	子どもの発達と作業療法 感覚統合機能の発達、認知・思考機能の発達			復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します		
	3	子どもの発達と作業療法 コミュニケーション機能の発達、子供の発達と遊び、セルフケアの発達と遊び			復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します		
	4	評価 発達障害領域の作業療法評価(1)			復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します		
	5	評価 発達障害領域の作業療法評価(2)			復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します		
	6	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ(1) 感覚統合の概要と評価			復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します		
	7	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ(2) 感覚の特性の理解と介入			復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します		
	8	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ(3) ASD、ADHD、SLD、DCDの特徴とアプローチ			復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します		
	9	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ(4) 感覚統合障害児への介入ポイント			復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します		
	10	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ(1) 脳性麻痺の疾患と全体像			復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します		
	11	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ(2) 脳性麻痺の評価とタイプ別アプローチ			復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します		
	12	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ(3) 脳性麻痺のタイプ別アプローチ			復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します		
	13	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ(4) 脳性麻痺のセルフケア			復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します		
	14	まとめ～介護体験実習に向けて～			復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等を配信します		
15	介護体験実習ガイダンス			介護体験実習に向けて、復習、準備をしておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施します。(2)定期試験(筆記)を実施します。(3)Teamsで振り返りの問題等を配信します。(4)介護体験実習後にレポートを提出してもらいます。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				20%
	Teamsの課題 (レポート)	○	○		○		20%(10%) (10%)
履修上の注意	前期課程履修後に特別支援学校での2日間の介護体験実習を7月中に実施します。日程は日程調整の上告知します。 その他、必要なものについては事業の中で提示をします。						

科目名	精神障害作業療法学 I						
科目名(英)	OT for Psychological Disorder I						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	脇元 啓行		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年						
授業概要	①精神医学の歴史と作業療法の歩みを知る ②精神保健・福祉領域における法律・施策を理解する ③精神科リハビリテーションと、その中での作業療法の役割を理解する ④精神科作業療法の実践課程を理解する ⑤精神障害特性と回復過程を理解する						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				精神医学の歴史と作業療法の歩みの概略を説明できる。	
	○	○				精神保健・福祉領域における法律・施策を説明できる。	
	○	○				精神科リハビリテーションと、その中での作業療法の役割を説明できる。	
	○	○				精神科作業療法の実践課程と、精神障害特性・回復過程を説明できる。	
○	○		○			インターク面接を実践でき、評価結果をまとめることができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:①香山 明美 他編:精神障害作業療法-生活を支援する-医歯薬出版 ②オリジナル資料 参考文献:1)富岡 詔子他編集 日本作業療法協会監修:作業治療学2 精神障害(作業療法学全書). 協同医書出版社 2)石井 良和他編:精神障害領域の作業療法. 中央法規 3)屋田 源四郎著:統合失調症患者の行動特性. 金剛出版 4)松井 紀和編著:精神科作業療法の手引き. 牧野出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 精神障害者処遇の歴史及び精神医学の発展			精神科での疑問などをまとめる。		
	2	日本の精神医学の歴史 精神障害者支援に関わる法・制度			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	3	精神障害における生活障害と障害特性			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	4	精神疾患の成り立ちと機能障害			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	5	作業療法の構造と実践			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	6	精神障害作業療法の実践(作業療法の導入)			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	7	精神障害作業療法の実践(作業療法の導入・インターク面接演習)			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	8	精神障害作業療法の実践(作業療法の評価・目標の設定と作業療法計画)			授業内容の復習を行い、演習のための準備を行う。		
	9	精神障害作業療法評価演習			面接演習の結果をまとめ、レポートを作成する。		
	10	回復過程における作業療法の実践(急性期の作業療法)			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	11	回復過程における作業療法の実践(回復期の作業療法)			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	12	精神障害作業療法に関連する理論・モデル・技法			授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。		
	13	事例検討(グループワーク)			事例検討のまとめ作業を行う。		
	14	事例検討(グループワーク)			事例検討のまとめ作業を行う。		
15	事例検討(グループワーク) 前期の振り返り			事例検討の結果をまとめ提出する。			
評価方法	(1)授業の中で小テスト・演習とレポート課題を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎		◎		20%
	宿題・レポート	◎	◎		◎		
履修上の注意							

科目名	老年期障害作業療法学						
科目名(英)	OT for Aging Adults						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	早川 由加里		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	老人保健施設にて 作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年生						
授業概要	日本の急速な高齢化に対応する為、この科目では高齢者の特徴や使用出来る制度、評価やリハビリテーションについて学ぶ。高齢者とそれを取り巻く環境・これから必要となることについて知る。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習: △	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				日本の高齢化の歩みと社会制度について学び、それを記述することが出来る。	
	○	○				高齢者の“古い”・“変化”についての特徴を10個以上列举出来る。	
	○	○				老年期リハビリテーション・評価について説明が出来、評価実習など臨床現場で役立てることが出来るようになる。	
	○	○	○	○		講義・班活動などを通し、対象者や自分自身のことについて理解を深め・課題を見出すことが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	1)小川敬之、竹田徳則 編:認知症の作業療法 ソーシャルインクルージョンをめざして 参考文献:1)松房利徳、新井健五 編:標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第3版 医学書院2016. 2)宮口英樹 監修:認知症を持つ人へのアプローチ-視点・プロセス・理論- メディカルビュー社.2014. 3)藪脇健司 編:高齢者のその人らしさを捉える作業療法. 文光堂.2015.						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション/高齢者のリハビリ、心身機能と評価①			事前に高齢のリハビリテーションにイメージを持つ		
	2	高齢者のリハビリ、心身機能と評価②			対象者となる高齢者について事前学習を行ってくる(1時間)		
	3	高齢者のリハビリ、心身機能と評価③			認知症の評価について事前学習を行う(1時間)		
	4	認知症の作業療法①:概論			認知症のリハビリテーションについて事前学習を行う(1時間)		
	5	認知症の作業療法②:評価			認知症へのアプローチについて事前学習を行う(1時間)		
	6	認知症の作業療法③:			認知症へのアプローチについて事前学習を行う(1時間)		
	7	認知症の作業療法④:リハビリテーション			認知症へのアプローチについて事前学習を行う(1時間)		
	8	認知症の作業療法⑤:アプローチ			認知症へのアプローチについて事前学習を行う(1時間)		
	9	認知症の作業療法⑥:			認知症へのアプローチについて事前学習を行う(1時間)		
	10	高齢者体験実習/レクリエーション発表準備①			高齢者体験キットの着脱について事前学習を行う(30分)		
	11	高齢者体験実習/レクリエーション発表準備②			レクリエーション発表に向けて、最終的な打ち合わせや準備を行っておく(30分)		
	12	高齢者体験実習/レクリエーション発表①			レクリエーション発表に向けて、最終的な打ち合わせや準備を行っておく(30分)		
	13	高齢者体験実習/症例検討①			症例経験報告書など、臨床実習で必要となる書類について事前学習しておく(1時間)		
	14	高齢者体験実習/症例検討②			症例経験報告書など、臨床実習で必要となる書類について事前学習しておく(1時間)		
15	高齢者体験実習/症例検討③、まとめ			講義を通して学んだことを整理しておく(1時間)			
評価方法	(1)授業の中で小テスト・レポートを数回実施する。(2)課題発表を1回は実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト	○	○				10%
	宿題・レポート	○	○				5%
発表・作品	○	○		○		5%	
履修上の注意	* 授業内容の順番は変更及び前後する場合がある。						

科目名	高次脳機能障害作業療法学						
科目名(英)	OT for Higher Brain Dysfunction Assesment						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	上田 豪気		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として施設勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年						
授業概要	高次脳機能障害の概要と各障害の障害像について教授する。また、高次脳機能障害が影響する生活障害について考え 作業療法士の役割についても提示する。併せて、作業療法を実践するうえで必要な画像所見や評価方法の基本的な知識と技能、作業療法介入について教授する。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				高次脳機能障害の定義および典型症状を理解することができる。	
	○	○				高次脳機能障害を抱える人の生活障害をイメージすることができる。	
	○	○				各高次脳機能検査の実施を理解し、実施することができる。	
	○	○				各高次脳検査検査の結果を解釈し、説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1) 鈴木孝治: 高次脳機能障害学領域の作業療法. 中央法規 2) 病気がみえる vol.7 脳・神経. MEDIC MEDIA						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	コースガイダンス・高次脳機能障害概論			振り返りシートで復習すること		
	2	脳の構造と機能			振り返りシートで復習すること		
	3	高次脳機能障害における作業療法の展開			振り返りシートで復習すること 小テスト①を実施します		
	4	作業療法士に必要な脳画像評価			振り返りシートで復習すること		
	5	意識障害における作業療法			振り返りシートで復習すること		
	6	注意障害における作業療法			振り返りシートで復習すること 小テスト②を実施します		
	7	意識・注意障害における神経心理学的検査			振り返りシートで復習すること		
	8	記憶障害における作業療法			振り返りシートで復習すること		
	9	情動障害における作業療法			振り返りシートで復習すること 小テスト③を実施します		
	10	記憶・情動障害における神経心理学的検査			振り返りシートで復習すること		
	11	失行症における作業療法			振り返りシートで復習すること		
	12	半側空間無視における作業療法			振り返りシートで復習すること 小テスト④を実施します		
	13	失行症・半側空間無視における神経心理学的検査			振り返りシートで復習すること		
	14	失語症における作業療法			振り返りシートで復習すること		
15	事例提示			振り返りシートで復習すること			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを4回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	日常生活活動 I						
科目名(英)	Activities of Daily Living I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	安部 剛敏		
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年生						
授業概要	<p>人の作業における日常生活活動(ADL)の位置づけを知り、作業バランスについても再考する。また、ADLを捉えるうえで必要なADL評価について教授する。加えて作業療法士がADLに介入する際に必要な臨床思考過程についても教授する。</p> <p>食事・更衣・移動などの臨床技能に関しては、OSCEを用いて演習を加えながら理解を進める。</p>						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				ADLの定義と分類を整理し説明することができる。	
	○	○				ADL評価で用いるFIMとBIIについて理解し、評価することができる。	
	○	○				ADL介入に関する臨床思考過程を理解できる。	
	○	○	○	○		OSCEを用いてADLに必要な臨床技能を修得することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<p>1) 藤井浩美: 日常生活活動の作業療法. 中央法規 2) 才藤栄一: 臨床技能とOSCE(機能障害・能力低下への介入編). 金原出版株式会社</p>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	コースガイダンス、ADL・IADL概論			振り返りシートで復習すること		
	2	身体障害領域におけるADL評価総論			振り返りシートで復習すること		
	3	身体障害領域におけるADL評価各論			振り返りシートで復習すること 小テスト①を実施します		
	4	FIM演習①(セルフケア・排泄コントロール)			振り返りシートで復習すること		
	5	FIM演習②(移乗・移動・コミュニケーション・社会的認知)			振り返りシートで復習すること		
	6	ADLへの臨床思考過程①(食事・整容・更衣)			振り返りシートで復習すること 小テスト②を実施します		
	7	ADLへの臨床思考過程②(排泄・入浴・基本動作)			振り返りシートで復習すること		
	8	OSCE概論			振り返りシートで復習すること		
	9	食事動作に対する介入技能			振り返りシートで復習すること 小テスト③を実施します		
	10	更衣(上衣)に対する介入技能			振り返りシートで復習すること		
	11	更衣(下衣)に対する介入技能			振り返りシートで復習すること		
	12	車いす概論			振り返りシートで復習すること 小テスト④を実施します		
	13	車いす駆動に対する介入技能			振り返りシートで復習すること		
	14	車いすシーティング①(リクライニング・ティルト車いす)			振り返りシートで復習すること		
15	車いすシーティング②(車いすクッション)						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを4回実施する。(3)宿題レポートを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎	◎	◎		20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							